

採血に伴う合併症と予防について

このたびは、健康診断を受診していただきありがとうございます。
採血につきましては十分に注意をしておりますが、ごまれに以下のことが起こる可能性があります。

内出血・腫れ

- 主に採血後の止血が不十分な場合に生じます。
- 針を刺した場所を**5分ほど**しっかり押さえて予防してください。
- 内出血があっても、ほとんどが1～2週間ほどで自然に治ります。
- 熱感や痛みのある場合は、氷、ぬれタオル、湿布薬などで冷やしてください。



神経損傷

- 非常にまれですが採血で神経を損傷し、採血後も手指へひろがる痛みや、しびれが持続することがあります。
- 皮膚表層近くの神経は個人差が大きく、神経損傷を100%防止することはできません。
- 通常の採血では、症状は一時的な場合がほとんどです。
- 症状が続く場合は、整形外科または神経内科などで、治療が必要となる場合があります。

採血時の気分不良（血管迷走神経反射）

- 採血中や採血後に一時的に血圧が低下し、めまいや気分不良、意識消失などを引き起こします。
- 心理的に緊張や不安が強い場合や、その日の体調によって起きます。
- 通常は10～30分程度横になって安静にするだけで軽快します。

- * 緊張しやすい方などで、横になって採血を希望される方はお申し出ください。
- * 採血後、移動中に気分が悪くなった時はすぐにしゃがむか横になってください。
- * 絆創膏は2時間以内にはずしてください。